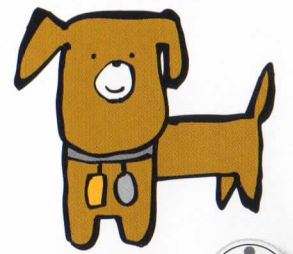


こんなことに注意しましょう

日常生活で注意すること

！犬の予防注射と登録等

飼い主には狂犬病予防法で飼い犬の登録と狂犬病予防注射、鑑札と注射済票の装着が義務付けられています。ご相談は市町村等の窓口へ。



！過剰な触れ合いは控えましょう

細菌やウイルス等が動物の口の中やつめにいる場合があるので、口移しでエサを与えたり、スプーンや箸の共用は止めましょう。動物を布団に入れて寝ることも、濃厚に接触することになるので要注意です。



！動物にさわったら、必ず手洗い等をしなさい

動物の毛には寄生虫の卵等がついていることがあります。また、知らないうちに動物の唾液や粘液に触れたり、傷口等にさわってしまうこともあります。その他、動物から排せつされた病原体を吸い込むこともあるので、動物にさわったら必ず手洗い等をしなさい。動物には病気を起こさなくても人には病気を起こす病原体があります。



！動物の身の回りは清潔にしましょう

飼っている動物はブラッシング、つめ切り等、こまめに手入れをして清潔にしておきましょう。小屋や鳥かご等によく掃除をして清潔に保ちましょう。タオルや敷物、水槽等は細菌が増殖しやすいので、こまめな洗浄が必要です。

！糞尿は速やかに処理しましょう

糞が乾燥すると空気中に漂って、吸い込みやすくなります。糞尿に直接ふれたり吸い込んだりしないよう気をつけ、早く処理しましょう。

！室内で鳥を飼育する時は換気を心がけましょう

羽毛や乾燥した排せつ物、塵埃等が室内に充満しやすくなります。室内の清掃のほか、定期的な換気に努めましょう。

！砂場や公園で遊んだら、必ず手を洗いましょう

動物が排せつを行いやすい砂場や公園は注意が必要です。特に子供の砂遊び、ガーデニングで草むしりや土いじりをした後は、十分に手を洗いましょう。また、糞を見つけたら速やかに処理しましょう。

！野生動物の家庭での飼育や野外での接触は避けましょう

野生動物はどのような病原体を保有しているの分かりません。動物由来感染症予防のため、また野生動物保護の観点からも、野生動物の飼育を避けましょう。

